

予防接種、助成の条件改善を

小栗 義朗



質 高齢者のインフルエンザ予防接種は、登別・室蘭市内の医療機関で受けた場合には、その費用の一部または全部を市が助成しているが、

登別・室蘭市以外の病院に入院あるいは施設に入所しているといった理由で、やむを得ず両市以外の医療機関で接種した場合は、費用の全額を自己負担しなければならない。

同 登別市民でありながら、接種した場所によって助成の対象とならないのはおかしいと考えるが見解は。

答 現在、本市では、対象となる市民が登別・室蘭市以外の医療機関で予防接種を受けた場合は、全額自己負担となっているが、万が一、予防接種に起因する健康被害が発生した場合は、市の責任において救済措置を行うこととしている。

し かしながら、指摘の通り、登別・室蘭市以外の医療機関で接種した方が助成の対象とならない点については検討すべき課題と認識しており、こうした方々の予防接種の助成について、償還払いなどの方法について検討していく。

高齢者など交通弱者の生活の足確保を

千田 文孝



第3期基本計画では、道路網の整備・適正な維持管理や、人にやさしい交通手段の確保を掲げてい

ます。また、地域公共交通のあり方を検討する場を設け、取り組みを進めるとしています。国交省からは「高齢者の移動手段の確保に関する検討会中とりまとめ」が6月に公表されました。これらの状況をたどりました。

質 新基準によるリアフリー化の図られた歩道を整備する予定は。

答 歩道の段差はセミフラット型が標準で、東通やJCHO登別病院周辺の市道は柏木通のように新基準で進める。

質 国交省の中間とりまとめと、地域公共交通のあり方検討の進捗は。

答 高齢者が安心して移動できる環境整備に向けた方策で、高齢化や急速な人口減少、交通事業者の経営状況の変化など需給の変化を認識している。JRやバス、タクシートのほか、地域においても各種の取り組みや、乗合タクシー、アンケート調査、各事業者の雇用状況など、庁内の横断組織を立ち上げ、現状把握と課題の整理中で、検討する場の設置を進めたい。

防災対策の推進強化を

村井 寿行



平成28年第4回定例会で質問した防災対策について、市が「検討する」としていた項目の進捗よく

状況をたどりました。

質 「避難所運営マニュアル」の整備についてどうなっているか。

答 その後、進展していない状況にある。

質 「被災者支援台帳」の整備についてどうなっているか。

答 今後、他市で開発したシステムを参考にして取り組んでいきたい。

質 一年が経過しようとしているのに、市の対応は非常に遅い。

答 市民の生命・財産を守るための防災部門の人員が1名減っているが、このような状況であれば、また一年たっても何も進まないのではないかと、体制の強化が必要であると思うが、どのように考えているのか。

答 人員減に伴いその結果、なかなか前に進むことができなかった。この反省を踏まえ、「地域防災マネージャー」として国から証明を受けた自衛官OBを防災職員として任用することを現在検討している。

平成31年に迎える市制施行50周年事業

工藤 俱二雄



過去の周年式典ではどのような事業が実施されたか。

答 昭和45年市制施行の年は第1回幌別ダム湖水まつり、記念式典や盛大なパレードを行い、第7回登別地獄まつりも開催された。10周年では、第6回登別市民まつりや第3回登別市民総合スポーツ祭を開催し、20周年では鬼サミット登別を開催、30周年では、市民実行委員会を設立し、市内全域をキャンパスとしたのぼりべつ市民大学、出会いと触れ合いの場としてハートtoはあとinnのぼりべつの実施、また、自然景観マップの作成など市民手づくりの企画が開催され、40周年では第1回のぼりべつ元鬼まつりが開催され、45周年には、50周年を大きな節目にさらなる飛躍を遂げるよう夢フォーラムを開催した。

質 市制施行50周年に対する考え方は。

答 まちの歴史や先人の努力や功績などを市民と共に敬意感謝するとともに新たな半世紀の始まりとして、市民・企業・団体・行政などの関係者が主役になり協働し、さらなる発展に向け力を合わせていく。

そのほかの質問：2020年東京オリンピック・2020年開設予定の国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園について